



犠牲者「ゼロ」を目指し、「自分の命は自分で守る」ために決断を

近年、全国各地で豪雨災害をはじめ、地震などの自然災害が相次いで発生し、甚大な被害をもたらしています。

平成23年東日本大震災以降、鬼怒川が決壊した平成27年9月関東・東北豪雨、震度7が観測された平成28年熊本地震など、想定を超えた自然災害が猛威を振りました。

そして、令和元年東日本台風（台風第19号）では、利根川の水位が急上昇し氾濫危険水位を超えたことから、本市では初めて避難勧告（現在では避難指示）を発令し、市内42カ所に避難所を開設しました。

こうしたこれまでの経験や情報を基に、本市ではいつ起こるか分からない災害の発生に備えて、災害対策の強化を図っておりますが、いざ災害が発生した場合、市や防災関係機関の対応「公助」だけでは立ち向かうことはできません。

「自分の命は自分で守る」「近所や地域の方々と助け合う」といった「自助・共助」が大変重要な役割を果たすものと考えております。

今回作成しました「久喜市防災ハザードマップ」は、洪水時の浸水区域や浸水深、地震時の揺れやすさや建物倒壊危険度、その他、災害時の感染症対策、災害情報の入手方法、マイ・タイムライン作成フォームなどを掲載しております。

市民の皆様には、災害からご自身やご家族を守り、また、いざという時に地域の皆様で互いに助け合うことができますよう、この一冊を今後の防災対策の一助としていただきたいと思います。

久喜市長 梅田修一

あなたや家族、大切な人の事と捉えて、命を守る行動を考えましょう。

近年、自然災害は毎年のように日本各地で猛威を振っています。そのような自然災害から命を守るためには、“あなたがどう判断し、行動するか”が大切です。

このハザードマップで、まずは、久喜市が災害時に“どうなる”かを知り、その状況であなたや家族が“どうなる”かをイメージしてみましょう。その上で、あなたや家族、大切な人の命を守るために、“どうする”ことが必要かを具体的に考えておきましょう。

それがあなただけでなく“あなたの家族や大切な人”の命を守る第一歩になるのです。

東京大学大学院情報学環特任教授 片田敏孝



1 早めの避難をためらわない！

避難の判断が遅くなるほど、行動の選択肢は少なくなります。
不安になったり、避難を迷ったら、ためらわずにまずは行動に移しましょう。

2 避難所へ行くだけが避難ではありません

避難先は市の避難場所である必要はありません。
親戚・知人宅など安心して避難できる安全な避難先を決めておきましょう。
状況に応じて柔軟に対応できるように複数の避難先（避難のパターン）を考えておきましょう。

3 みんなで決めて、みんなで逃げる

避難の決断は、ひとりでは難しいものです。避難を誘う声かけをしたり、一緒に避難する人を決めておきましょう。
また、地域にはひとりでは避難が困難な方もいます。助け合いながら避難するなど、みんなで逃げる方法も考えておきましょう。

久喜市
防災ハザード
マップは、**想定最大規模の降雨による浸水状況**や**地震の想定**をみなさんにお知らせし、命を守るための対応について考え、備えてもらうためのものです。

水害や地震が起きる前に
今から備えておきましょう。



Flooding		
水害	知っておきたい水害のリスク 河川が氾濫したら？	3-4
	氾濫によって起きること 久喜市はどうなる？	5-6
	洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図	7-12
	利根川	7-8
	荒川・江戸川	9-10
	小山川・中川とその支川	11-12
	河川氾濫の危険性が高まったら いつ避難する？	13-14
	河川氾濫の危険性が高まったら どこに避難する？	15-16
	逃げどきマップで考えよう！ 洪水からの避難対応	17-18
	逃げどきマップ	19-34
	1 栗橋地区	19-20
	2 栗橋・鷺宮地区	21-22
	3 久喜・鷺宮地区	23-24
	4 久喜地区	25-26
	5 久喜・菖蒲・鷺宮地区	27-28
	6 久喜・菖蒲地区	29-30
	7 菖蒲地区	31-32
	8 菖蒲地区	33-34
	自宅や家財を浸水から守るために 浸水被害を軽減する方法	35-36
Earthquake		
地震	知っておきたい地震のリスク 地震ハザードマップ	37-38
	耐震化・家具の固定が第一 地震から身を守る方法	39-40
	避難所・避難場所一覧	41-42
	地域のちから	43-44
	情報の入手方法	45-46
	非常持ち出し品・備蓄品、災害時に役立つ情報	47-48
	わが家の防災行動メモ	49-50
	逃げどきマップ判定フロー	51
	災害時の連絡先・問い合わせ先	52